

## 第9回柏崎市学区等審議会 概要報告

1 日 時 令和4年（2022年）8月10日（水）午後6時30分～午後8時15分

2 会 場 柏崎市役所1階 多目的室1、2

### 3 出席者

- (1) 委員 16名 阿部会長、徳永副会長、五十嵐委員、池嶋委員、大谷委員、小林（眞）委員、小林（美）委員、関矢委員、遠山委員、富川委員、中村（豊）委員、中村（義）委員、宮坂委員、矢代委員、山田委員、吉田委員
- (2) 事務局 4名 宮崎教育部長、田辺教育総務課長、池田学校教育課長、矢沢学校教育課主幹
- (3) 傍聴者 1名
- (4) 報道 2名

4 都合により欠席した委員 4名 片山委員、北村委員、拝野委員、飛田委員

### 5 会議概要

- (1) 開会あいさつ 阿部会長
- (2) 審議事項  
グループ討議（鯖石小・高柳小、東中・第五中の統合）
- (3) その他
- ① 次回審議会の日程  
8月25日（木） 午後6時30分から  
市役所1階 多目的室1、2
- ② その他
- (4) 閉会あいさつ 徳永副会長

#### 発 言 者

#### 発 言 概 要

##### 【開会あいさつ】

会 長 : これからの答申に向けた審議について、私なりの考え方を述べる。学区等審議会は、市の条例に基づいて設置されている。学区等審議会設置条例第6条では「審議会の議事は出席委員の過半数で決し、可否同数の時は会長の決するところによる」とあり、多数決制をとっている。これは市議会やその他議決機関と同じ一般的な方法である。ただ、市民の関心が高い学校統合の問題で、特に地元の声を聞いていく審議会として、多数決による決定が多くの人の納得を得られるとは思えない。

平成20（2008）年度から21（2009）年度に設置された前回学区等審議会の答申では、審議の基本姿勢に「全員一致を原則とする」と明記されていた。かなり案件が多かったため、全てが全会一致で決定したかは分からないが、基本的に私たちも全会一致を目指すべきである。ただ、これまでの議論でも分かるように、それぞれの委員の考え方に違いがある。その中でどうしても一致できない部分が出てくると思う。全会一致若しくはそれに近い決定を目指すには、お互いの意見を聞きながらどこまで歩み寄れるの

か、どういう妥協点を見いだせるのかということが必要になる。この点はぜひ委員の皆さんのご協力をお願いしたい。

今日は前回に引き続きグループ討議を行う。先に述べた作業の第一段階であり、各グループである程度一致した方向性を出せるかどうか、委員同士の異なる意見にどこまで歩み寄りを見いだせるかという作業になる。

## 【報告事項】

会 長 : 先週、私と副会長の二人で、関係者との意見交換を3回行った。意見交換を行ったのは市議会議員2名、高柳の地域関係者、高柳の保護者である。高柳の地域関係者や保護者と改めて意見交換を行った理由は、意見拝聴会では言いにくい意見、回答を得られなかった意見を知りたかったからである。3回分あるため、要点だけ報告させてもらう。

まず、8月2日に行った市議会の笠原議員、阿部議員との意見交換の内容を報告する。笠原議員は地元が中鯖石の加納地区、阿部議員は南鯖石の山室地区であり、どちらも第五中学校区であるため、主に東中学校と第五中学校の統合について意見を聞いた。

笠原議員からは以下の意見が挙げられた。

- ・学区再編は最短でも4年間かかると思っていたので2年間は急ぎすぎである。
- ・第五中学校は校舎を建てたばかりなので統合の話は出ないと思っていた。生徒が極端に減るわけではない。
- ・高柳地域だけでなく、南鯖石地域から東中学校に通うのも距離があって大変である。部活動はどうするのか。
- ・高柳中学校と第五中学校との統合で子供たちが慣れてきたところで、また統合の話が出た。
- ・学校がなくなることは、いろいろな問題に影響が出てくる。

阿部議員からは以下の意見が挙げられた。

- ・統合は避けられない場合が出てくるとしても、あまりに急ぎすぎである。
- ・スピード感が必要な時と丁寧にゆっくりやらなければならない時がある。時間をかけて準備するべきである。
- ・学校の問題は住民の人生設計に関わってくる。それを2年でやると言われれば賛同はできない。一方で南鯖石地域には諦めムードもある。南鯖石小学校と鯖石小学校の統合の際にいろいろなことを市にお願いしたが、なかなか叶えてもらえなかったことが背景にあると思う。

続いて、8月5日に高柳コミセンで行った高柳の地域関係者との意見交換の内容を報告する。参加者は高柳地区コミュニティ振興協議会、門出、岡野町、岡田の町内会の代表者4名である。町内会の代表者のうち2名は地区の連合会の役員も務めている。

参加者からは以下の意見が挙げられた。

### 【参加者A】

- ・今回の再編方針は地元が知る前に報道され、ボタンの掛け違いがあった。その後もいろいろなことを市が親身になって説明することはなかった。
- ・地域の集まりにおいて、小学校の保護者からは「子供をこの環境で育てたい」という意見が多かった。
- ・Uターン、Iターンをしてきた人たちの意見を聞いて進めていかなければならない。
- ・通学時間の問題はもう少し具体的な説明がほしい。その説明があれば納得

する人もいるのではないか。

**【参加者B】**

- ・高柳地域は過疎化が進み、Iターンしてきた人たちなどが農業、除雪、地域行事を支えている。教育と地域づくりは一体であり、彼らは高柳地域で子育てをしたいと言っている。
- ・過去にも統合の問題に対応してきたが、行政が地域に寄り添っていない。その蓄積が今出ている。

**【参加者C】**

- ・地域の説明会の前に新聞で報道され、市に対する不信感がある。要望書を出しても回答がなかった。意見拝聴会で説明があったが、これは後付けである。
- ・統合が4年後ならまだ感情を抑えられた。
- ・全戸アンケートを実施すれば賛成、反対は半々だと思う。
- ・中学校は第五中学校なら良いが、東中学校まで行くのは避けたい。
- ・鯖石小学校、第五中学校で（高柳にとっての）「学園ゾーン」という気持ちを持っている保護者もいたが、これまでの経過の中でこういった意見は閉じこもってしまった。

**【参加者D】**

- ・子供たちは第五中学校まで通学している実績があるため、鯖石小学校ならそう変わらないとも言える。しかし、東中学校までとなると話が違う。
- ・小学校は児童6人であることを考えると、統合はやむを得ないと思う。
- ・小学校は統合し、中学校は統合をやめるということで解決はできないか。
- ・地元としては、小学校の統合と中学校の統合を一緒に行うのは大変である。

最後に、8月5日に岡野町公民館で行った高柳の保護者との意見交換の内容を報告する。参加者は保育園、小学校、中学校の保護者14名である。

参加者からは以下の意見が挙げられた。

**【小学2年生の保護者】**

- ・学年1人だが困っている様子はなく、不安はないと見ている。
- ・先生が個を尊重してくれている。
- ・鯖石小学校に行くと地域性が薄れる。

**【小学6年生の保護者】**

- ・学年1人だが、子供は1人が嫌とは言っていない。ただ、鯖石小学校との交流は楽しいようである。
- ・中学校は第五中学校へ通うのは良いが、それ以上大きい学校に通うのはどうなのか。

**【小学5年生の保護者】**

- ・人数は少ないがそれなりに楽しくやっております問題はない。
- ・中学校は第五中学校でとどめてほしい。仮に統合するのであれば同じ規模の北条中学校との統合の方が良い。

**【保育園児の保護者A】**

- ・子供は少なければ少ないなりに、増えれば増えたなりに楽しむ。
- ・規模が小さい学校だからといって社会性が育たないという不安はない。
- ・保育園で一緒であった鯖石地域の子供と小学校で別れることも考えたが、高柳地域全体で子供会をやっており、良い関係を作っているのも同学年の子供がいなくても大丈夫である。
- ・小学校の統合は聞かれれば反対である。鯖石小学校と統合しても、また統合するのではないかという不安もある。
- ・鯖石小学校に通う場合にどれくらい地域のことが学べるのか、送迎をどうするのかなど安心できるアイデアがほしい。

**【保育園児の保護者B】**

- ・小学校は鯖石小学校でも良いと思っている。子供も鯖石の子と別れるのは嫌だと言っている。しかし、東中学校まで通学するのは遠すぎる。

【中学生の保護者A】

- ・基本的な学習は教科書をきちんと教えてもらえればそれで良い。
- ・高柳中学校と第五中学校が統合したときは、あれよあれよという間に話が進み、今度は東中学校との統合の話が出てきた。
- ・自分は小学校の統合に反対だが、小学生の保護者が「鯖石小学校で良い」という意見であればそれで良い。

【中学生の保護者B】

- ・東中学校は遠く、行事があった際に子供が東中学校へ行った時も疲れた様子であった。通学のことを考えてもらわないと生活に影響する。

【その他の意見】

- ・子供は「複式授業のA・B年度方式は大変だ」と言っていたが、自分で復習して学習している。本当は1年ごとの授業が一番良いと思う。
- ・高柳の門出地域からだと第五中学校への通学が限界である。東中学校に通うのであれば松代の学校へ通わせる。
- ・通学に往復2時間かかるのは考える。これしかないと言われても困る。
- ・高柳中学校と第五中学校が統合したとき、事前に交流があったが短かった。また、校風の違いに葛藤があった。
- ・大きな規模の学校に行くのはいじめの問題等が心配である。それに対する対応を示してほしい。

今回、高柳の地域関係者や保護者との意見交換を通して、保護者を中心に鯖石小学校と高柳小学校の統合に対する反対意見が多いことを改めて確認した。保護者は地域のオピニオンリーダーであり、地域の世論を作っている。ただ、保護者を含め地域は必ずしも反対一色ではなく、「統合はやむを得ない」「鯖石小学校でも良い」という意見があることも分かった。

東中学校と第五中学校の統合に関しては、地域関係者、保護者どちらも反対意見が総意であった。やはり「東中学校は遠すぎる」という問題に尽きる印象を受けた。地元では人数等の問題以前に通学距離を非常に不安視しており、「東中学校で良い」という意見はなかった。

副会長： 会長と二人で高柳地域の意見を聞く際、再編方針に対する反対意見が多い中ではあるが、非常に穏やかで好意的に受け入れてくれた。また、保護者の本音を聞くことができたと思っている。

保護者は、ただやみくもに反対している訳ではなく、通学時間やいじめ等による子供の精神的な部分への心配を抱えつつ、「身近な所で子供を育てたい」という親の思いで反対していることを知った。その一方で、保護者に「小学校だけを考えた場合、子供たちが鯖石小学校に行くことに対する不安はあるか」と聞いたところ、学校に対する不安の声はなかった。これは高柳地域と鯖石地域との関係がうまくいっているためだと感じた。ただ、地域の中で子供を育てることの良さを日々実感していることや「近い場所で子育てをしていきたい」という親の思いがあり、今後も地域で子供を育てたいと考えているのだと思う。それが鯖石地域になったとしても、通学面以外の不安はそれほどないように感じた。

中学校の統合に関しては「東中学校は遠すぎる」という意見が多く、私も毎日往復2時間通学するのは大変だと考えている。通学時間の積み重ねを考えた際に、人生においてその時間はとても気になる場所である。

会長： 意見交換の報告に対して質問等あるか。

委員： 学校統合によって、現在複式学級である学年の人数が増えることによるメリットはあると思う。高柳小学校の子供自身は複式学級の授業や学校統合に対してどのように考えているのかを聞き取るべきである。

会長： 保護者との意見交換の中で、小学校の統合に強く反対している人から「子

供は『今の環境が良い』『不満はない』と言っている」という意見があった。ただ、子供は今の環境しか知らない訳で、大勢の学校のことを知らないため、「今の環境が良い」と言うのは当然だと思う。また、高柳小学校訪問の際に校長先生が言っていたが、子供たちが「今の環境が良い」と感じるように教員はきめ細かな教育を目指し熱心に取り組んでいる。したがって、子供に聞くのも一つの方法だが、統合後の環境を知らないため答えようがないとも考える。

#### 【審議事項】

会 長 : それではグループ討議に入る。前回の続きの討議を行う。次回はグループ討議の報告及び質疑となるため、今日の段階で各グループで一定の方向性を出してもらいたい。どうしても意見がまとまらない場合は両論併記も認めるが、経過を丁寧に説明してもらいたい。

(グループ討議)

#### 【その他】

事務局 : 次回の審議会は、8月25日(木曜日)午後6時30分から市役所1階多目的室1、2で行う。

会 長 : 次回は各グループの記録・発表係の人から各グループの意見を発表してもらおう。発表の仕方は自由だが、一つのグループが発表した後、それに対する質疑を行う。全グループの発表、質疑終了後、全体を通しての質疑を行う。審議会全体の意見集約は9月8日に行う。

委 員 : 次回はグループの話し合いをせず、すぐに発表を行うのか。

会 長 : その予定である。もし話し合いが必要であれば次回までに個別に集まってもらいたい。

委 員 : 9月11日、18日の意見交換会は会長、副会長が行った高柳地域での意見交換と同じ内容を審議会全体で行うのか。

会 長 : 前回の意見拝聴会は教育委員会が説明を行い、地元の意見を聞く会だった。今回の意見交換会は、学区等審議会が諮問を受けていることに対して一定の方向性を説明し、意見を聞く会である。

委 員 : 審議会ですとめた意見を会長が報告し、それに対して意見を聞くのか。

会 長 : そうなると思う。9月8日の審議会はそのための審議を行う。

以上、相違ないことを確認する。

令和4年(2022年)8月25日

会 長 阿 部 義 章

副会長 徳 永 優 子